

「流量減少の傾向がみられる沢」の 重点的なモニタリングについて

<本資料に記載の項目>

「今後の主な対話項目」（2024年2月5日 静岡県）抜粋

II 生物多様性編

1 沢の水生生物等への影響

(4) 「流量減少の傾向がみられる沢」の重点的なモニタリング

希少種保護の観点から、希少種の生息・生育箇所に関わる情報等は非公開としております。

2026年3月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

- (1) はじめに..... 1
- (2) 上流域調査の結果を踏まえた「流量減少が予測されるその他の沢」の今後のモニタリングについて 3

(1) はじめに

- ・ これまでに、国土交通省リニア中央新幹線静岡工区有識者会議（環境保全）では、沢の地形・水環境、生物の生息状況を踏まえ、沢の類型化を実施しました（8類型に分類）。
- ・ そのうえで、より効果的なモニタリングとなるよう、重要種の生息・生育状況を踏まえ、各類型の中から重点的にモニタリングを実施する沢（重点的な沢）を抽出しています。
- ・ 同じ類型の中に、解析上、「流量減少が予測される沢」と「流量減少が予測されない沢」が含まれている場合には、重要種の生息・生育状況を踏まえ、それぞれから1沢、重点的な沢を選定しています。
- ・ 重点的な沢は、継続的に実施するモニタリングについて、その他の沢と比較し、モニタリング項目が多く、また頻度も高く実施することとしています。
- ・ こうした中、2024年4月の第12回生物多様性専門部会において、「流量減少が予測されるその他の沢¹」については、景観に基づく生息場評価法による予測・評価や沢の上流域調査の結果を踏まえ、今後のモニタリング内容を改めて検討することとしていました。
- ・ 以上を踏まえ、表1、黄色着色にて示す、「流量減少が予測されるその他の沢」のうち、2025年秋季に沢の上流域調査を実施した沢13 ジャガ沢、沢14 流沢、沢16 上スリバチ沢、沢29 蛇沢について、上流域調査の結果を踏まえ、重点的な沢と同等のモニタリングを実施する必要があるかどうかを検討しました。

¹ 国土交通省リニア中央新幹線静岡工区有識者会議において整理された、上流域モデルにより流量減少が予測される沢のうち重点的な沢と指定されていない沢

表1 沢一覧

類型※1	沢	流量減少予測の有無※2	重点的な沢※3	上流域調査を実施した沢※4
類型1	内無沢			
	魚無沢		○	
	悪沢	○	○	○
	北俣・中俣合流部付近			○
類型2	上岳沢			
	西小石沢		○	○
	柳沢			
	徳右衛門沢			
	西俣川（柳島付近）			
類型3	大崩			
	車屋沢		○	○
類型4	赤石沢		○	
	大井川（樫島付近）			
類型5	大尻沢北の沢			
	大尻沢			○
	下木賊北の沢			
	虎杖沢		○	
	蛇沢南の沢			
類型6	瀬戸沢		○	
	柱小屋沢			
	蛇抜沢	○	○	○
類型7	曲輪沢		○	
	ジャガ沢	○		○
	流沢	○		○
	二軒小屋南西の沢	○		
	上スリバチ沢	○		○
	スリバチ沢	○	○	○
	燕沢			
	蛇沢南東の沢			
	破風石沢			
	下木賊沢			
	上千枚沢			
	下千枚沢			
	蛇沢	○		○
類型8	奥西河内川		○	

※1：国土交通省リニア中央新幹線有識者会議（環境保全）において実施した、沢の地形・水環境、生物の生息状況を踏まえ実施した類型化の結果

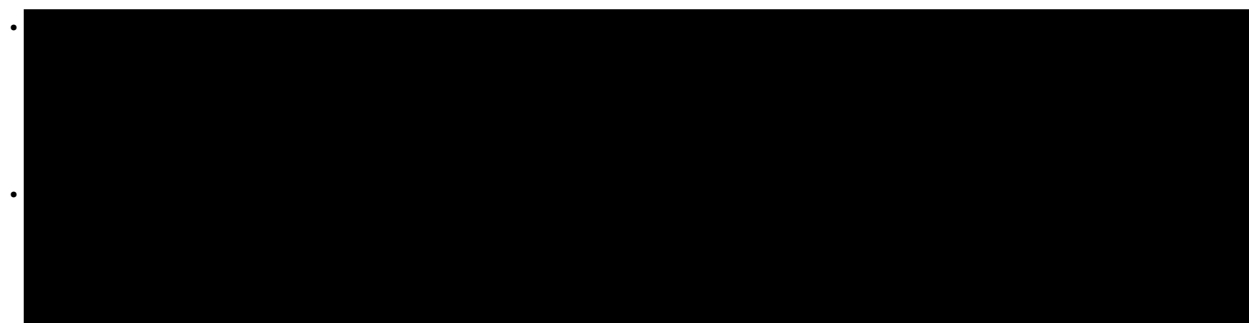
※2：国土交通省リニア中央新幹線有識者会議（環境保全）において、大井川上流域の沢の影響分析という目的のもと、新たに作成したGETFLOWSによる解析モデル（上流域モデル）により、流量減少が予測される沢

※3：国土交通省リニア中央新幹線有識者会議（環境保全）において、各類型の中から抽出した重点的にモニタリングを実施する沢。動植物の生息・生育状況調査で確認された重要種の種数等に着目して抽出した。

※4：2025年秋季に沢の上流域において動植物の生息・生育状況調査を実施した沢

(2) 上流域調査の結果を踏まえた「流量減少が予測されるその他の沢」の今後のモニタリングについて

- ・今回、上流域調査を実施した「流量減少が予測されるその他の沢」は、沢 13 ジャガ沢、沢 14 流沢、沢 16 上スリバチ沢、沢 29 蛇沢が該当します。
- ・これらの沢はいずれも、先述した沢の類型化の結果では、既に重点的な沢として選定している沢 17 スリバチ沢と同類型に属する沢です。
- ・今回の上流域調査を踏まえ改めて重要種の確認種数を整理した結果、沢 13 ジャガ沢、沢 14 流沢、沢 16 上スリバチ沢、沢 29 蛇沢における確認種数は、沢 17 スリバチ沢における確認種数を下回っています（沢 13 ジャガ沢：18 種、沢 14 流沢：14 種、沢 16 上スリバチ沢：16 種、沢 29 蛇沢：13 種、沢 17 スリバチ沢：33 種）（表 2）
- ・また、国土交通省リニア中央新幹線有識者会議（環境保全）で重点的な沢を抽出した際と同様に、重要種の中でも一般的な生息・生育環境が河川水辺と関係のある種や静岡県、静岡市から影響を懸念されている ██████████ の生息が確認されている沢は重みづけをして、沢毎に重要種の生息・生育状況を点数化しました。
- ・その結果においても、沢 13 ジャガ沢、沢 14 流沢、沢 16 上スリバチ沢、沢 29 蛇沢の点数は、沢 17 スリバチ沢における点数を下回っています（沢 13 ジャガ沢：27 点、沢 14 流沢：20 点、沢 16 上スリバチ沢：19 点、沢 29 蛇沢：21 点、沢 17 スリバチ沢：41 点）（表 2）。
- ・以上を踏まえ、現時点においては、上流域調査を実施した「流量減少が予測されるその他の沢」には、同類型のスリバチ沢の種数や点数を上回る沢がないことから、重点的なモニタリングを実施する沢への追加はしないこととします（詳細は、「資料 4-2 南アルプスの自然環境に係るモニタリング計画について」参照）。



- ・これらの調査結果を踏まえ、両沢については、改めて継続的に実施するモニタリング内容の更新が必要か否かを、専門家へ相談のうえ、決定します。
- ・また今後も、「流量減少が予測されるその他の沢」や現時点では流量減少が予測されていない沢に関する継続的に実施するモニタリング内容は、動植物の生息・生育状況調査や高速長尺先進ボーリング等の地質調査を踏まえ、必要に応じて見直し²を行います。

² 見直しの方法は、調査結果を踏まえ、静岡県、静岡市、専門家等に相談し別途検討することとし、本資料に記載した、種数や国土交通省リニア中央新幹線有識者会議（環境保全）で実施した点数化に限りません。

表2 上流域の結果を踏まえた動植物の生息・生育状況の整理結果

